

萩原 敏孝

欧 米を中心に、世界は今、単一のグローバル会計基準を設定し、これを利用しようという方向にあります。こうした中で日本がどのように対応すべきか、わが国の進むべき方向性が問われています。

国際的動向を見てみますと、米国では、これまで自国基準以外は認めなかったSEC（証券取引委員会）が、まず外国企業にIFRS（国際会計基準委員会の設定をする会計基準）を認め、米国企業にもIFRSの選択適用を認めてはどうかという提案をしています。さらに米国は、自国基準にこだわらず、将来的にはIFRSを改善したグローバルな単一基準を採用しようとしています。EUはすでに域内の公開会社にもIFRSを強制適用し、域外の企業にもIFRSまたはこれと同等の基準を採用させようとしています。

このように、米国とEUはIFRSをベースとしたグローバル基準を導入していく方針を固めています。また世界全体

グローバルな会計基準と日本の対応

副代表幹事
アジア委員会 委員長
小松製作所
相談役・特別顧問



で見ても、中国を含む100カ国を上回る国々がすでにIFRSの採用を決めています。

このような国際状況の中で、わが国は、私が理事長を務めている（財）財務会計基準機構傘下の企業会計基準委員会（ASBJ）および監督官庁の金融庁が、日本基準をベースとしながら国際的な会計基準との統合（コンバージェンス）を推進するとの方針の下に、欧米の関係機関との共同作業や当局間の協議を進めてきております。しかしながら、先に述べた欧米の急テンポな動きを見ますと、わが国においてもさらに一歩進めて、グローバルな会計基準の作成に積極的に参画し、これを導入することも視野に入れた検討が必要かと思われれます。そのためには、何をどのようにしたらグローバル基準を日本に導入できるかという制度的な議論を早急に始めなければなりません。

経済のグローバル化がますます進む中で、日本の市場や企業が世界と同じ「モノサシ」で評価されるよう、小異を捨てて大同につくとの姿勢が求められているように思います。各企業においても「会計」に関するこのような国際情勢を的確に理解し対処する必要があると考えます。

Contents

001 ● 巻頭言 萩原敏孝	グローバルな会計基準と日本の対応
002 ● 2008年 年頭見解	魅力ある日本の再構築に向けて
004 ● 新年祝賀パーティー・合同記者会見	桜井正光代表幹事 発言要旨 ほか
008 ● リレートーク 岩沙弘道	古い地図は捨てるべし～地方再生の新視点
009 ● 特集 座談会	規制改革推進をあらためて訴える
016 ● お知らせ	2008年度 副代表幹事 推薦候補者の内定
017 ● 委員長インタビュー	アジア委員会 萩原敏孝
018 ● 経済同友会最前線	第33回 日本・ASEAN 経営者会議 ほか
025 ● お知らせ	全国45経済同友会共催 第21回全国経済同友会セミナーのお知らせ
026 ● コペンハーゲン通信	デンマークの環境戦略
027 ● 同友会スケッチ	2007年11・12月の記録と2008年2月の予定
029 ● 新入会員紹介	2007年12月21日現在の入退会者
030 ● 私の思い出写真館 牛尾治朗	三一会